



筑波大学

University of Tsukuba

筑波大学体育系紀要

第 38 卷

The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences

Vol.38

「筑波大学体育系紀要」寄稿規定

(平成 25 年 11 月 21 日)

平成 25 年度体育系紀要・研究業績集編集委員会

I 規定 (和文および欧文)

1. 筆頭著者

本誌に寄稿できる論文の筆頭著者は、本学に属する以下の身分の者である。

- (a) 体育系の教員 (特任助教を含む)、研究員
- (b) 体育系教員の指導を受けている人間総合科学研究科在籍の博士後期課程大学院生
- (c) 体育系教員の指導を受けた博士後期課程修了者または単位取得退学した者
- (d) その他紀要・研究業績集編集委員会が認めた者

2. 寄稿内容

寄稿内容は、体育系関連分野における総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告、その他とし、完結したものに限る (後述の (付記) 参照)。

3. 原稿の採択

原稿の採択は、紀要・研究業績集編集委員会において決定する。総説、原著論文、実践研究、および研究資料の審査にあたっては、紀要・研究業績集編集委員会が原則として本学体育系の 2 名の教員に査読を依頼する。なお、専門領域上、適切な査読者がいないと判断された場合には、外部者に査読を依頼することができる。

4. 寄稿の依頼

総説、特集、報告に関しては、紀要・研究業績集編集委員会が寄稿を依頼することができる。依頼原稿には査読を行わない。

5. 発行回数

本誌の発行回数は、原則として年 1 回とする。原稿の提出時期および発行時期は、紀要・研究業績集編集委員会において決定する。

6. 著作権

本誌に掲載される著作物の著作権は、掲載にあたり体育系紀要・研究業績集編集委員会に帰属することを前提とする。掲載された論文は電子化され、筑波大学附属図書館の運営する電子ジャーナルおよびつくりばりポジトリ等で保管され、公開される。

7. 投稿方法

投稿は、以下のいずれかの方法で行う。

a. 体育系紀要・研究業績集編集委員会に直接あるいは郵送による提出

寄稿論文は Microsoft Word を使用して作成する。文字の大きさは 12 ポイント、「、」と「。」を使用。ダブルスペースで 1 ページあたり 18 ～ 20 行、ページ番号を付すこと。和文では明朝体、英文では times あるいは century のフォントを使用すること。

・ 題目、要約、本文

最初のページには、寄稿内容の種別 (総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告)、分冊希望の有無および冊数、題目 (和文および欧文)、著者名 (和文およびローマ字)、本学体育系外の著者の所属機関名 (和文および欧文)、代表者の連絡先 (氏名、所属、住所、メールアドレス) を記す。2 ページ目には、原著論文では、和文あるいは欧文のいずれの場合でも、英文で 200 ～ 250 words の “Abstract” を記す (和文による「要約」は不要)。総説、実践研究、研究資料、特集、報告では、和文あるいは欧文のいずれの場合でも、英文で 250 words 以内の “Abstract” を記す (和文による「要約」は不要)。また、いずれの寄稿原稿においても和文の場合は和文、欧文の場合は英語で 3 ～ 5 語のキーワードを記す。本文は 3 ページ目から開始し、各図表の挿入箇所を < 図 1 >、< table 1 > のように示すこと。

Microsoft Word を使用して作成した題目、要約、本文は、任意のファイル名で CD-R に記録したもの (1 枚)、さらにそのファイルを A4 判用紙に印刷したもの (オリジナル 1 部、コピー 3 部) を提出する。

・ 図表 (原則としてモノクロ印刷)

図 (写真): GIF あるいは JPEG のファイル形式で作成し (解像度は原則として 300dpi (dot per inch) 以上とする)、“図 1”、“図 2” あるいは “fig1”、“fig2-a”、“fig2-b” のように図番号がわかるファイル名とした上で、本文を記録した CD-R に共に記録する。図のキャプションは、Microsoft Word を使用してまとめて 1 つのファイルとして作成し、“figcaptions” のファイル名で同様に CD-R に記録する。図は別途、図ごとに A4 判用紙にキャプションと共にプリントアウトしたものを各 4 部提出する。

表: Microsoft Word を使用してキャプションも含めて作成し、“表 1”、“表 2” あるいは “table1”、“table2” のように表番号がわかるファイル名とした上で、本文を記録した CD-R に共に記録する。表は別途、表ごとに A4 判用紙にプリントアウトしたものを各 4 部提出する。

b. 電子メールの添付ファイルによる提出

寄稿論文は Microsoft Word を使用して作成する。文字の大きさは 12 ポイント、「、」と「。」を使用。ダブルスペースで 1 ページあたり 18 ～ 20 行、ページ番号を付すこと。和文では明朝体、英文では times あるいは century のフォントを使用すること。

・ 題目、要約、本文

最初のページには、寄稿内容の種別 (総説、原著論文、実践研究、研究資料、特集、報告)、分冊希望の有無、題目 (和文および欧文)、著者名 (和文およびローマ字)、本学体育系外の著者の所属機関名 (和文および欧文)、代表者の連絡先 (氏名、所属、住所、メールアドレス) を記す。2 ページ目には、原著論文では、和文あるいは英文のいずれの場合でも、英文で 200 ～ 250 words の “Abstract” を記す (和文による「要約」は不要)。総説、実践研究、研究資料、特集、報告では、和文あるいは英文のいずれの場合でも、英文で 250 words 以内の “Abstract” を記す (和文による「要約」は不要)。また、いずれの寄稿原稿においても和文の場合は和文、欧文の場合は英語で 3 ～ 5 語のキーワードを記す。本文は 3 ページ目から開始し、各図表の挿入箇所を < 図 1 >、< table 1 > のように示すこと。

Microsoft Word を使用して作成した題目、要約、本文は、任意のファイル名で記録したものを下記の電子メールアドレスに添付ファイルとして送付する。

・図表（原則としてモノクロ印刷）

図（写真）：GIFあるいはJPEGのファイル形式で作成し（解像度は原則として300dpi(dot per inch)以上とする）、“図1”、“図2”あるいは“fig1”、“fig2-a”、“fig2-b”のように図番号がわかるファイル名で記録したものと、別途、すべての図のキャプションをまとめてMicrosoft Wordを使用して“figcaptions”のファイル名で作成したファイルを下記の電子メールアドレスに添付ファイルとして送付する。

表：Microsoft Wordを使用してキャプションも含めて作成し、“表1”、“表2”あるいは“table1”、“table2”のように表番号がわかるファイル名で記録したものを下記の電子メールアドレスに添付ファイルとして送付する。

原稿提出先電子メールアドレス：henshuu@taiiku.tsukuba.ac.jp
（紀要・研究業績集編集委員会宛）

8. 原稿枚数の制限

原稿枚数は、1編につき図表も含めて刷り上がり10ページ以内とする（和文文字数で図表を除き約18,000文字、英文で図表を除き約6,000words）。ただし、研究資料に関しては、原則として、枚数制限無しとする。

9. 引用文献

(1) 引用文献は、原則として著者名のアルファベット順に通し番号をつけ、本文の最後に一括する。

(2) 本文中での引用方法は、引用箇所の後に^{1,2,8,10-14}のように、該当する文献番号を肩字でつけることとする。

例1 ……という成績を報告している^{1,3,10}。

例2 最近の縦断的研究成果^{5-7,9,12-15}によると……

例3 先行研究では、Jones⁵ や山田²⁵ が、……

(3) 引用文献の記載要領は、原則として単行本の場合には、著者、西暦年号（カッコに入れる）、書名、発行社名、発行場所、ページ数（開始ページ-終了ページ）の順に、著者が複数で編集者がいる単行本やプロシーディングなどの場合には、著者名、題名に続けて、和文では、（編）の後に編集者名を、そして「」内に書名を、欧文では、（Ed.）の後に編集者名を、そして（In）の後に書名を記載する。雑誌の場合には、著者名、西暦年号（カッコに入れる）、題目、雑誌名、巻数、ページ数（開始ページ-終了ページ）の順とする。著者名のイニシャル、雑誌略称の後には原則としてピリオドをつけない。

・単行本やプロシーディングの場合

例1 奥田拓道（1984）：肥満。化学同人，京都，22-29。

例2 American College of Sports Medicine (1986): Guidelines for Exercise Testing and Prescription. Lea & Febiger, Philadelphia, 53-71.

例3 若林 満（1982）：組織開発とキャリア開発。（編）二村敏子ら「組織の中の人間行動」，有斐堂，東京，318-333。

例4 Atal BS (1989): Speech coding and human speech perception. (Ed.) Elsendoorn BAG and Bouma H (In) Working Models of Human Perception. Academic Press, London, 101-125.

・雑誌論文の場合

例1 松浦義行（1990）：中・高年期における体力低下傾向の検討。筑波大学体育科学系紀要13：195-205。

例2 Taylor HL, Buskirk E, and Henschel A (1979): Maximal oxygen intake as an objective measure of cardio-respiratory performance. J Appl Physiol 8 : 73-80.

10. 「注」について

注をつける場合は、本文中のその箇所の右肩上に、注¹⁾、注²⁾のように通し番号をつけ、本文の末尾と引用文献の間に一括して番号順に記載する。脚注にするか、本文中の段落間、あるいは章末に記載してもよい。

11. 欧文による投稿の場合の推奨事項

欧文で投稿する場合には、事前にネイティブスピーカーによる内容のチェックを受けることが望ましい。

12. 校正

印刷の校正は2回行い、初校は著者校正、第二校は紀要・研究業績集編集委員会が行う。

13. 別刷

別刷は、50部までは紀要・研究業績集編集委員会の予算で負担し、それを越える分は、筆頭著者が負担する。

II（付記）寄稿原稿の種類（「体育学研究」寄稿の手引きを改変）

1. 「総説」は、特定の研究領域に関する主要な文献内容の総覧、あるいは特定の領域で寄稿者が行った研究の概説・集大成などであるが、その記述は単なる羅列でなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つことが必要である。また、体育系関連諸分野における国内外の研究動向の紹介、評論、研究上の疑問や、あるいはこれまでの研究論文に対する批評や疑問を基にした重要な仮説・問題提起なども総説に含める。必ずしもその妥当性が検証されている必要はないが、十分に論理的であり、その仮説の組み入れによる研究・実践上の有効性、および追試等による立証の可能性が期待されるものであることが望まれる。論文の構成や見出し語は、内容に応じて適切なものを用いる。

なお、総説は、紀要・研究業績集編集委員会が寄稿を依頼することがある。この「依頼総説」には査読を行わない。

2. 「原著論文」は、科学論文としての内容と体裁を整えているもので、未発表のデータに基づき、新たな科学的な知見をもたらすものであることが必要である。論文の構成は、問題提起、目的、方法、結果、考察、結論、文献、英文抄録の各部分から成り立っていることが必要である。ただし、人文系、社会学、自然系では論文構成にちがいががあるので、論文の構成や見出し語はそれぞれの研究領域に応じて適切なものを用いる。

3. 「実践研究」は、体育系関連分野の実践現場からの貴重な情報をもとにした研究で、たとえば指導法に関する実用的研究や、スポーツ選手を事例的に分析した研究などが含まれる。論文の構成は、「原著論文」に準じる。

4. 「研究資料」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、客観的な資料として価値を認められるものである。この場合、2の原著論文に必要な見出し語や、それに相当する内容のすべてを含む必要はないが、先行関連研究とのつながりのなかで、その資料を提供することの意味が明らかにされ、資料そのものの説明が十分になされていることが必要である。論文の構成は、「原著論文」に準じる。

5. 「特集」は、紀要・研究業績集編集委員会が適切と判断した特定の内容に関する寄稿を、本学体育系の教員（特任助教を含む）、および紀要・研究業績集編集委員会が認めた者に依頼する。

6. 「報告」は、学内外における講演会等に関する報告および授業、実習、実験、調査に関する報告のほか、学内・体育系内からの研究助成（河本体育科学奨励賞、栗原基金研究助成、学内プロジェクト、学系内プロジェクト）を受けた研究について、その内容を簡潔にとりまとめたものである。研究助成を受けたプロジェクトの研究代表者については、紀要・研究業績編集委員会が寄稿を依頼する。
7. 「その他」は、体育系あるいはその関連分野における、提案、意見、体験談、エッセイ、情報の紹介などであるが、内容が紀要に適するかどうかについては編集委員会で検討する。

Submission Rules for the Bulletin of the faculty of Health and Sport Sciences

(Ver 1.0, 2013-11-21)

1. First author

The first author who can submit a paper should have either following status;

- (a) Faculty member (including Junior Assistant Professor) of the Faculty of Health and Sport Sciences, Researcher of the Faculty of Health and Sport Sciences
- (b) Graduate student of the doctoral program of the Graduate School of Comprehensive Human Sciences directed by a faculty member of the Faculty of Health and Sport Sciences
- (c) Post graduate student of the doctoral program of the Graduate School of Comprehensive Human Sciences directed by a faculty member of the Faculty of Health and Sport Sciences or a student who completed this coursework without degree
- (d) A person who is permitted to submit a paper by the editorial board.

2. Type of paper accepted

The submitted paper should refer to the field of health and sport sciences and be classified as either a general commentary, an original article, a practical study, deal with research materials, a feature article, a report or other articles concerned with health or sport including a lecture content, an introductory essay of a teaching, a proposal, an opinion, a story of some experiences, some information, etc.. It must be complete.

3. Acceptance of the paper

Acceptance of the paper will be determined by the editorial board of the bulletin and research reports. A general commentary, an original article, a practical study and a research material will be peer reviewed by two faculty members of the Faculty of Health and Sport Sciences as requested by the editorial board. In case of a lack of an appropriate peer reviewer, the editorial board may request the assistance of researchers from other organizations.

4. Request for papers

The editorial board may occasionally request papers such as a general commentary, a feature article or a report. These requested papers will not be peer reviewed.

5. Numbers of issues

The bulletin is issued annually. The schedule for the submission of papers and the time of the publication of the issue will be decided by the editorial board.

6. Copyright

Copyright of the submitted material (paper) will belong to the editorial board, when it appears to the bulletin. The paper will be converted to electronic form and kept at the Tsukuba Repository of the University Library, which is open to the public.

7. Method for submission

For submission of a paper, there are two methods;

a. Direct mail submission to the editorial board

Papers should be prepared using Microsoft Word (2003 or newer). Either extension (.doc or .docx is acceptable). Character size is to be 12 points, use Times or Century fonts, double-spaced (18 to 20 lines per page). Be sure to add page numbers.

On the first page the following items are required.

1. Classification of the paper (a general commentary, an original article, a practical study, a research material, a feature article or a report)
2. Number of reprints (if any)
3. Title
4. Author(s) and their organization(s)
5. Contact address and the E-mail of the first author

On the second page the following items should be indicated.

1. Abstract in 200 to 250 words
2. Keywords (2-5 words)
3. Total number of figures and tables

The text begins from page 3.

Page 1, 2 and the text from page 3 on should be integrated into one 'Word' file with any filename. Each table, figure and its caption saved separately and their filename(s) should be "Table 1" or "Figure 1" and so on. Captions of the figures should be integrated into one file named "fig captions". These files should be loaded onto a CD-R. Four printed copies of the figures (A4 size) as well as the CD-R should be submitted.

Locations where tables or figures should be inserted should be noted with <> marks, such as <Table 1> or <Figure 1>. In addition, please place the words "Figure x or Table x about here" to guide its placement for publishing.

b. E-mail submission to the editorial board with attached files

A "Word" file of page 1, 2 and the text with any filename, table files, figure files and a file of captions of figures should be submitted to the following editorial board mail address as attached files;

henshuu@taiiku.tsukuba.ac.jp

8. Page limitations

The paper, including tables and figures, should not exceed 10 pages in the printed bulletin. That means a text with ca. 6000 words. But there is no limitation with respect to research materials.

9. The References Cited style

(1) For the References Cited section the following examples should be followed.

American College of Sports Medicine (1986): Guidelines for Exercise Testing and Prescription. Lea & Febiger, Philadelphia, 53-71.

Atal BS (1989): Speech coding and human speech perception. (Ed.) Elsendoorn BAG and Bouma H (In) Working Models of Human Perception. Academic Press, London, 101-125.

Taylor HL, Buskirk E, and Henschel A (1979): Maximal oxygen intake as an objective measure of cardio-respiratory performance. J Appl Physiol 8 : 73-80.

(2) References should be indicated in alphabetical order of the first author with numbers, and cited in the text with its number together with a right parenthesis, such as ^{5-7,9,12-15}.

10. 'Note'

'Note' should be indicated such as ^{Note1}) or ^{Note2}) in the text and its explanation should be written at the end of the text. These notes will be inserted at the bottom of each page in the printed bulletin.

11. Proofreading

Proofreading will be done twice. First proofreading will be made by the first author and the second proofreading will be done by the editorial board. Please carefully check your paper for errors prior to submission.

12. Reprints

Fifty reprints are free. Additional reprints will be charged to the first author.

平成 26 年度 筑波大学体育系紀要・業績集編集委員会

委員長 足立和隆
委員 高橋義雄 武田文 菟山靖 久保大輔
クラリク・アンドレア 斎藤卓 鈴木耕太郎 濱崎裕介
松畑尚子 三橋大輔 村上祐介

筑波大学体育系紀要 第 38 卷 2015 年

The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, Vol.38, 2015

2015 年 3 月 発行

発行者 筑波大学体育系 中川 昭
茨城県つくば市天王台 1-1-1 (〒305-8574)
NAKAGAWA Akira
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba
1-1, Tennodai 1 chome, Tsukuba-shi, Ibaraki-ken, 305-8574 Japan
印刷所 株式会社イセブ 茨城県つくば市天久保 2-11-20

CONTENTS

Original Investigations

- A Study on the Acceptance of Physical Education for Military during the Last Period of the Asia-Pacific War
– Focusing on the Physical Education for Military Pilot in MANABE Elementary School –
MURAI Yuki et al. 1
- In-Game Cognitions and Self-Talk of German and Japanese Soccer Players
Guido GEISLER 9
- Cross-sectional View of Foot Growth and Deformity in Young Japanese Rhythmic Gymnasts
ZHU Minhong et al. 23
- The Influence of American Football Equipment on Running Ability
– A Two-year Longitudinal Study –
FUKUDA Takashi et al. 33

Materials

- The History and Characteristics of Traditional Sports in Central Asia: Tajikistan
Zubaidullo UBAIDULLOEV 43
- Using CART-Q to Investigate the Relationship between High School Judo Club Members and Coaches in Japan
YAMAGUCHI Kaori et al. 59
- Trust in the Coach Perceived by High School Judo Athletes
OKADA Hirota et al. 69
- Questions Regarding the Present State of Professional Cultivation for Teachers of Health and Physical Education
at Teacher Appointment Examinations
MITABE Isamu 77

Institute Projects

- The Inheritance of the Korean Traditional Equestrian Feats in Edo Era
– Focusing on Kakeumashinji of Fujinomori Shrine –
LEE Chanwoo 87
- Application of “Sport Skill Certificate” and its Evaluation
– Verification of the “Standard” Model –
UCHIYAMA Haruki et al. 93
- Growth Analysis of Community Sport Club
SHIMIZU Norihiro et al. 111
- The Relationship between the Mental Health of Visually Impaired Students and Sports Activities in Schools
KOHDA Yasuko et al. 117
- Developing Tag-rugby Modified Games for Elementary School PE
HASEGAWA Etsushi et al. 123
- Instructions for Movement Form Corrections in Apparatus Gymnastics
HAMASAKI Yusuke 129
- Effect of Counter Movement Arm Action on Sprinting Velocity in Elementary School Children
KIGOSHI Kiyonobu 133
- Experimental Approach for Binocular Eye Movements and Fixation Stability in the Visual Field
KOKUBU Masahiro 139
- Development of E-condition Management System to Support Swimmers Athletic Performance
SENGOKU Yasuo et al. 143
- The Effect of Exercise Following Muscle Injuries on Healing Process
MURAKAMI Ikuma et al. 149

Reports

- Report on Conferences in the Field of International Development and Peace through Sport
TSUCHIYA Satomi et al. 153
- Lectures for Sport Sciences, Tsukuba Global Science Week (TGSW)
..... 161

筑波大学体育系紀要

第38巻

目次

【原著論文】

- ・ アジア・太平洋戦争末期における軍事体育の受容
- 茨城県土浦市真鍋国民学校の航空体育に着目して -
村井友樹、ほか..... 1
- ・ In-Game Cognitions and Self-Talk of German and Japanese Soccer Players
Guido GEISLER 9
- ・ 日本人新体操ジュニア選手の足の成長と変形について
朱 敏鴻、ほか..... 23
- ・ アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響
- 2年間の縦断的研究 -
福田 崇、ほか..... 33

【研究資料】

- ・ The History and Characteristics of Traditional Sports in Central Asia: Tajikistan
Zubaidullo UBaidulloEV..... 43
- ・ 日本における高校柔道部員とコーチ間の人間関係の検討 - CART-Q を用いて -
山口 香、ほか..... 59
- ・ 高校柔道部員の感じているコーチに対する信頼感
岡田弘隆、ほか..... 69
- ・ 保健体育科教師として教員採用選考試験で問われる専門教養の現状
三田部勇..... 77

【プロジェクト報告】

- ・ 江戸時代における朝鮮馬術の伝来と継承 - 藤森神社の駟馬神事を中心に -
李 燦雨..... 87
- ・ 「実技検定」の運用とその評価 - 「標準」モデルの検証 -
内山治樹、ほか..... 93
- ・ 地域スポーツクラブの成長性分析と経営指標の開発
清水紀宏、ほか..... 111
- ・ The Relationship between the Mental Health of Visually Impaired Students and
Sports Activities in Schools
KOHDA Yasuko、ほか..... 117
- ・ 小学校体育授業のためのタグラグビー教材の開発
長谷川悦示、ほか..... 123
- ・ 器械運動における動きの修正指導に関する研究
濱崎裕介..... 129
- ・ 短距離走における腕ふり動作の反動効果が疾走速度に及ぼす影響
木越清信..... 133
- ・ 視野空間における両眼眼球運動および注視安定性に関する実験的検討
國部雅大..... 139
- ・ 競泳選手の競技パフォーマンスをサポートする e-コンディション管理システムの開発
仙石泰雄、ほか..... 143
- ・ 筋損傷後の運動介入が治癒過程に及ぼす影響
村上生馬、ほか..... 149

【報告】

- ・ スポーツ国際開発学の現在：国際会議とプログラム開発研修レポート
土屋智美、ほか..... 153
- ・ 第3回 Tsukuba Global Science Week (TGSW) スポーツ科学分野の講演
..... 161